

議事録

審議会等名	つくばみらい市都市計画マスタープラン・立地適正化計画策定 第4回まちづくり検討委員会
開催日	令和元年7月25日 14時00分～
開催場所	つくばみらい市役所伊奈庁舎 3階 大会議室
出席者	有田委員長、鐘ヶ江副委員長、五木田委員、武藤委員、野口委員、生井委員、齊藤（常）委員、牟田委員、斎藤（保）委員、森田委員、白鳥委員、菩提寺委員、下鳥委員、中島委員 アドバイザー：青山先生 事務局：奈幡都市建設部長、梅本都市計画課長、荒井副参事、 荒川係長、島田 コンサル：オオバ
議題	1. 都市計画マスタープラン 全体構想について 2. 都市計画マスタープラン 地域別構想について 3. 立地適正化計画の考え方について 4. その他

○質疑応答

発言者	意見
<p>牟田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり検討委員会の最初の会議の際、学校についてはこの中に入れないのかと質問を行った。その背景は、現在本市で義務教育適正配置審議会が実施され、小中学校の統廃合について教育委員会で審議がなされている。それに関し事務局からの回答は、義務教育適正配置審議会でも小中学校の統廃合は教育委員会で実施しており、この会議においては話し合いをしないというものであった。本日の資料を読むと、疑問に思うところがあり、私の認識違いだったら申し訳ないが、13 ページの小絹駅周辺市街地に関する整備方針の部分が、説明を聞いていて気になった。都市づくりが完了している絹の台地区にはというように、2) の基本方針のところだが、今現状、義務教育適正配置審議会に関して言うと、小絹中学校と谷和原中学校の統廃合が検討されている。谷和原中学校ないし小絹中学校どちらかに中学校が統廃合されると思う。人が集まる場所は、子育て世代が集まり、定住し、人が定着していくイメージを持っているが、例えば、統廃合の結果谷和原中学校が残った場合、小絹地区の子どもたちはそちらに行くことになる。小絹に住んでいる方々は谷和原中に通わなければいけないが、今後移住してくる方が選択するか疑問である。この計画が駄目だということではなく、整合性を取らないと、話し合いで良いものができても、10 年後に破綻したら無意味だ。</li> <li>・もう一点は、私はみらい平地区の富士見ヶ丘小学校で PTA 会長をしているが、先日陽光台小学校と富士見ヶ丘小学校で義務教育適正配置に関するアンケートをとった際、気になる点が多々あった。この会議に関係する為、参考意見程度で聞いて欲しい。多くのみらい平の住民が、みらい平地区の都市計画は破綻していると認識している。それを理解しこの計画がなされているのであれば良いが、どうするのか疑問がある。「破綻」とする理由は、小学校が 1 千人規模になり、富士見ヶ丘小学校は開校 3 年目でパンク状態である事だ。人口が爆発的に増えている。人口のコントロールを都市計画上で行わなかったのは、どういうことかと疑問に思う保護者が多くいる。それが住民の意見だ。それを盛り込むのは難しいことだが、念頭に置き考えてゆかなければと思う。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小絹駅周辺市街地の整備方針は、資料の 13 ページになる。小絹中学校と谷和原中学校の統廃合の話だが、このまちづくり検討委員会の前段にワーキングチームという各課係長クラスが集まる委員を設けており、その係長クラスもこの文面をチェックしている。学校に限らず小絹駅周辺は多くの方が住み、小絹地区の市街地周辺に関する整備方針として、こちらに記載している。学校統廃合の話は都市計画から逸れ、学校教育課が窓口になり都市計画とずれる為、記載していないが、小絹駅周辺市街地は学校の統廃合後も計画的な住宅が整備され、谷和原インターチェンジや国道 294 号線の利便性の高い生活施設や小絹駅があり、それらを活かした市街地の形成は引き続き行う。</li> </ul>

発言者	意見
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統廃合は、地区別構想や都市計画マスタープランであれば、小中学校は地域の生活の拠点として機能しており、統廃合後も防災拠点として残るか等、徒歩圏内の生活拠点として小中学校の位置をベースにし、どう議論するかを地区別構想で記述するのは、通常の都市計画マスタープランでは普通である。都市計画行政サイドは小中学校の統廃合をどうすべきか議論する立場でないのは当然だが、小中学校が統廃合された結果を踏まえその空間をベースにし、その周辺をどう整備するかという方針を作るのは、都市計画側マスタープランの仕事である。その観点で追加すべき事が沢山ある。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校計画や統廃合情報を都市計画へ盛り込むかは、担当課と深く擦り合わせを行いたい。</li> </ul>
牟田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後 10 年小学校に通う保護者の立場から申し上げる。学校の適正配置審議会の議論をここでする必要はないが、学校をどこに作るのか、大きな土地を確保するのかが、都市計画上で必要なことではないか。みらい平地区に小学校は既に建てられたが、みらい平地区の住宅地が計画されている戸数に対し圧倒的に小学校の面積は小さい。中学校も用地が計画されているが、ここには計画できないという話になっている。理由は、費用は勿論だが、中学校を建てても子どもたちをこの面積に収容できないという事である。都市計画上どうなのか。県が計画したところと言われればそうだが、この周辺に、この規模の、この生徒数を、収容可能な中学校の用地を取るとか、小学校の用地を取るとかは、都市計画上でやるべきことであると考えてる為、配慮を願う。</li> </ul>
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設総合管理計画は既に策定済みだが、その内容との連携をどうするか、例えば 24 ページに深く記載はされていないが、今のところについてコメントが欲しい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 24 ページに公共公益施設の整備方針が記載されている。基本方針について、「今後の人口、児童・生徒数の推移を見極めながら、通学区の再編成などを行い、過大規模の小学校、中学校や過小規模の小学校などを解消し、学校規模と配置の適正化を推進します」としているが、今後、牟田委員の意見を踏まえ、学校教育課と意見交換し文面に少しボリュームを持たせたい。</li> </ul>
青山先生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4 ページに、将来の都市規模人口はおおよそ 5 万 3 千人とあり、今後他の調査や構想が出れば修正するだろうが、人口だけで都市構造や土地利用や住宅政策は決まらない。むしろ住宅政策や住宅のニーズでいうと、世帯数で決まる。つくばみらい市のデータは今持っておらず東京都のデータで言うと、東京都は平成の 30 年間に人口が 17% 増えたが、世帯数は 47% 減である。その為マンションが売れるのが当たり前ということだが、それは世帯の細分化という全く都市計画とは別の社会現象として世帯数が細分化してきているのである。具体的には、1 世帯あたりの人数が 2.46 人だったのが、平成の 30 年間に 1.96 人に減った。今後は社会現象としての世帯の細分化はさらに進んでいき、つくばみらい市も同じ現象が起きていると思うが、成熟の度合いからいうと東京都よりも時期が 10 年 15 年ずれて減少が進んでくると思う。東京都は今から 15 年後に一人世帯が、単独世帯が世帯数の過半数になるという公式の予測だ。</li> </ul>

発言者	意見
青山先生	<p>人口が変化し5万3千人になるだけではなく、その中で世帯数がどうなるかを考えると、4ページのグラフの、人口減の為に住宅のニーズが減少するのではないことを頭に入れておくべきである。世帯数予測をすべきと提案しているのではなく、頭に入れ意識しておく必要がある。</p> <p>18ページの公共交通の部分で、鉄道、路線バス、コミュニティバス、デマンド乗合タクシー、タクシーなど様々な交通手段の連携とあるが、これはとても大事である。以前の会議で、コミュニティバスの路線の話が出たが、今後10年15年を考えると、公共交通のコミュニティ路線はAIの導入等により変化していくだろう。ウーバーは普及しないと言われていたが、既に東京で出てきている。加えて今は乗合バス、タクシー等、デマンド型のものがかなり進出してきており、思う以上に早くこの種のシステムの変化は進んで行くので、特にコミュニティレベルの公共交通は今後10年15年飛躍的に変化すると思われ、それを市民が便利に使えるよう誘導することが必要である。ちなみに例を挙げると、2020年は東京オリンピック、2028年はパリのあとロサンゼルスで行うが、ロサンゼルスは道路渋滞で有名な街であるが、その対策はオリンピックではしない。システムが格段に変化し今の交通システムでの交通渋滞はなくなると考えているからだ。具体的には空を飛ぶようになる等の話だが、ウーバーの発祥の地でもあり、実際にそのようになるだろう。よって、これもそれ以上表現するべきと提案しているわけではないが、やはりそのような変化は起こりうると思う。</p> <p>それからもう一つ、19ページに公園・緑地等の整備方針があり、これも修正されていてこの表現でいいと思うが、今後の公園や緑地などは公園と道路と農地等がそれぞれ縦割りで土地利用がなされていくか、決してそうではなく例えば公園は今までの都市公園法は他のところには一切使わせないという規制が中心の公園法だったが、今はイベントなど市民が様々な積極的に活用する方向に大きく舵を取ったと思う。道路も同様に、道路を公園化する等の変化が起きている。農地も、都市公園法と重複指定する等の動きが広がっており、この様な制度が今後大きく変わる可能性がある。少なくとも縦割りではなくなるので、これも頭に入れておく必要があると考える。これもまた表現を何が何でも変えなければいけないということではないが。</p> <p>もう一つ似た話だが、24ページ、25ページに、教育施設以外に文化施設も書いてある。社会教育施設等、これが④で、⑤でコミュニティ施設等とあるが、そこは既に変化が起きつつあり、図書館や公民館や記念館や博物館や体育館等を縦割りで作るのではなく、改築や増築や新設等を機会にそれらを融合した施設として多機能型で作る傾向が生じている。既に単一機能でない複合施設、融合施設がつくばみらい市にもあり、そのような施設が主流になっているので、それは気を付けて表現したい。以上、特段これを訂正すべきという提案ではないが、意見を出した。</p>

発言者	意見
齊藤（常）委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みらい平地区の市街化の拡大との部分があるが、段階的に拡大すると入れて欲しい。他の市町村を見ると一気に拡大したところは一気に高齢化が進んでいるので、段階的に人口を拡大させることが必要である。もう一つ、私の最寄り駅からだが、農村部のことがあれなのだが、既存部の集落の発展を今後どうしていくのか、ただ緑を守る、自然を守るのでいいのかということがある。実態はどんどん農業者も減り、世帯もなくなってしまう。既存のそういう地域の人口増も必要ではないか。線引きを見直し住宅誘致を既存の部分を広めていく、小絹地区に限定せずその様な既存地域の人口を拡大することが必要だと思う。是非、線引きを見直しその流動をすることも入れてほしい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段階的な拡大については、先ほど牟田委員からも、段階的に整理・拡大しなかった為、今、学校問題等が起きているという話があり、段階的な拡大という形で今後検討したい。次に既存集落の世帯数、集落の減少だが、農家も人口が減り、また高齢化もあり、引き続きこの都市計画マスタープランとは別につくばみらい市としてもUターンやIターンの推奨をしている。元々その出身者として結婚し東京都内に行っている方もおり、つくばみらい市で生まれた方はつくばみらい市に戻って欲しく三世同居という政策もしているので、引き続き市としてPRし、既存集落の維持活性化を今後考えていきたい。</li> </ul>
齊藤（常）委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落に接続した農地でこの農地の大きさで作業できるのかと疑問視する動きがある。そういうところは集落と接続しており、そういうところを線引きし直している。住宅の開発もひとつではないかと申し上げた。ご検討いただきたい。</li> </ul>
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスタープランの全体構想の内容構成として足りないところが多々あり、指摘したい。まず、こちらは線引きをしている都市だと思うが、線引きを見直すか見直さないか、その場合に調整区域でも開発の余地があるかという意見だったと思うが、それを議論するだけの材料の内容がここに全く入っていない。そもそも、都市計画区域マスタープランは県が決めており、そういう上位計画ではこの地域がどういう位置づけで、それとの対応で市がその内容をどう深めるかという基本的な構成がなっていない。関連する上位計画がどのような内容がエッセンスとして決められ、それとの関係で市の都市計画マスタープランの中味をどう位置づけるか、この構造が必要なのである。次に、都市計画区域マスタープランには、都市計画法に定められた主たる骨格の内容が必ずある。骨格の内容とは、土地利用と都市施設と市街地開通事業である。土地利用とは何か、まずここは線引き都市であるから線引きの方針が区域マスタープランに書いてある、その線引きの要件をそのままどう利用するのか、その市街化区域はどうするのか、調整区域も今までのような要望があったときにある程度限定的に開発を少し許容するのもしないのか、その線引きの現状を書いた上でそれに対して今後はこういう方針とゾーンで書いてあるのであれば、具体的に土地利用規制でその手段をどのように見直すかとか書かなければいけない。</li> </ul>

発言者	意見
有田委員長	<p>土地利用に関して言えば、線引きが今どういう構想になっていて、区域マスタープランでどういう構成に書かれていて、それについて市としてはどう考えてどう運用していくのかを書いて欲しい。次に都市施設については、道路についてはどういう整備予定か書いてあるが、その他公園などの事業について、今現状でどこまで整備が進んでおり、今後どうするのか。市街地開発事業に関して言えば、区画整理が既に終わったということだが、今後検討されているのかどうか。そのいずれにしても上位計画との位置づけで市として具体的にどこのゾーンをどうしていくのか。通常は、関連する計画との関係性を書くので市の総合計画の結果についても言及される。それから、先ほど青山先生から、人口だけではなく世帯数という指摘があったが、その世帯数の動向も踏まえ先ほどの線引きの話は、最終的には立地適正化計画もそうだが、人口密度の密度コントロール、土地利用上どのように持っていくかをマスタープランに書くべきで、それがある程度区域マスタープランには書かれているが、それに関する言及が全くないので、今後これを深めるべきと考える。</p> <p>加えて、この図に今の構想図とあるが、これが構想か現状の分析か分からない。構想であれば、先ほどの土地利用と公共施設と市街地開通という分野別に、例えば線引きであれば今後こういうふうにしていくなど、内容別に図がたくさんあるべきだ。通常マスタープランであればそういう内容が含まれている。また、内容の方針だが、つくばみらい市の現状を踏まえた事実を深めて欲しい。例えば、27 ページに防災とあるが、つくばみらい市で主たる課題として考えられるのは、水害とそのハザードマップとの関係だが、水害に関してどういうことが想定されているのか、もう少しきちんとした記述があってしかるべきだと思う。一方で、逆に沿道の建物の不燃化や延焼遮断帯や、宅地が狭小で老朽化した木造建物の密集する地域については、東京都であればこういう言葉を使うのは分かるが、具体的につくばみらい市でこういう内容であっているのか。どこかあるのか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧市街地に狭小住宅がある。谷井田市街地や伊奈東にも一部、そういった市街地に住宅がある。</li> </ul>
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>延焼遮断帯も整備する必要があるということか。つくばみらい市の地域防災計画の内容など、水害やより切実な課題についてきちんと市の現状を踏まえた内容で書くべきだと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生からのアドバイスをもとに、今後一部修正したい。</li> </ul>

発言者	意見
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• それから、この後の内容が地区別構想になっていて3地区になっているが、区域マスは既にあるので、その地区別構想をどう作り込むかというのが、地区別マスタープランに重要なのだが、その際に地区別構想の地区ゾーンの分け方をどう考えるかという考え方の内容の説明が、通常ある。突然唐突にこの3地区になっているが、この3地区の分け方が妥当かというところから議論すべきで、それは自治体によって事情が違うので、何百万人という横浜市のようなところであれば、地区別構想で分けたとしても通常の市の一つぐらいの大きさになることもあるが、茨城県のこのぐらいの自治体であれば、例えば昔からの、合併前の旧集落の構想、地区を基礎体で考えると、学校を深く考える等、徒歩生活圏内ということ意識した上で、地区ゾーンは設定される。もう少し広域になることもあるが、なぜこの3地区にしたか説明がなく、いきなり3地区の資料が出てきている。そこを考えてもらい、資料を添付すると良い。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地区別の分け方については、次の地区別構想で説明したい。</li> </ul>
牟田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 先ほどの齊藤委員から既存集落の経緯に関し意見があったが、その通りであると思う。最初の検討委員会で、事務局からコンパクトシティにしたいと説明を受けた。この問題をどう解決するのか考えねばならない。その上で、やはり集落の維持が大事と言うのは、実際にコンパクトシティになった結果、既存集落がなくなり何が起きているかを事務局側は把握しているのか。宮城のある地方都市では、人がいなくなった場所を管理する方がなくなった為、山村部で土砂災害が実際に起きている。ただコンパクトシティになっても、そこを誰が整備するのか、管理する側がどこか疑問である。その部分も踏まえ、既存集落の維持はある程度必要と思う一方、コンパクトシティや、水害があるので高台移転も理解はしている。その整合性は今後きちんと、この方針だからざっくりで良いというのではなく、方針のもと行政は動いていくので、明確に示したほうが良いと考える。</li> </ul>
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 県で土砂災害の危険区域の指定があり、指定されている場合には、その地域に誘導すると言にくい面もあるが、指摘のようにコンパクトシティを進める事と、既存集落維持の為その様な場所でも開発を予定したい事と、どちらが良いかバランスが難しい問題である。どの自治体でも同じような課題を抱えており、つくばみらい市なりの解決策をこの場でご理解いただけるようにしたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 難しく大きな問題で、すぐこの場で正確な回答をするのは難しいが、引き続き既存集落が市内にはあり、なくなるのも大きな問題なので、まずはなくなるよう住み続けていただき、そこから子どもが生まれ外に出ても、またつくばみらい市の集落に戻る環境を整備し維持できればと考えている。</li> </ul>

発言者	意見
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後市に住み続けていただく視点も重要と思っており、例えば今ご説明した資料の15ページに集落環境地域に関する整備方針を載せているが、この辺の記述をベースに今アラカワが言ったことを踏まえ再検討したい。</li> </ul>
牟田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局に聞きたい。全体構想の資料と、2-1から2-3までの資料、これは誰に向けた資料か。検討委員会向けの資料か、たたき台として市の構想として外に出すものなのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このまちづくり検討委員会のたたき台の資料として、公開するということで、委員の皆様から意見をいただきまた資料を作り込み、まちづくり戦略本部の会議に資料を作り込んでいく。</li> </ul>
牟田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たたき台という認識でよいか。私がここに来たのは2時40分で、全体構想の説明が続いていた。全体構想の説明と審議が終わったのが3時30分。3時30分から次の議題が始まり、4時15分に終わった。皆時間のない中で検討委員会に時間を割き、これだけ説明の時間を取られてしまうと、何のための検討委員会なのかということになる。事前に資料を配るのであれば、膨大な資料で説明も必要だ。事前に読み込んできた上で、検討委員会を進めるのが、時間を有効に使うことではないか。会議説明がとにかく長い。文章しかなく、ビジュアルがない。読むのに大変時間がかかる。ビジュアルが入っていないと、自宅の時間も皆、取ることになるので、資料の作り方を再考して欲しい。先ほどの「誰が読むものか」との質問に戻るが、これを外に出すのであれば、読む人の立場に立ち資料を作って欲しい。読んでいて、つくばみらい市の未来が見えない。ワクワクもせず、楽しんで住みたいとも思わない。ここに住むときに、色々な所を見たわけではないが、このような都市計画も見た。自分がずっと住む場所であり、どんなことを考えているのかと思い、内容を見た。その時にここに住みたいと思えなければ、人口は増えない。住む人にとっても、ここに住んでいたら私たちに未来があるのだと分かる資料ではなく、どうしようもないものである。ワーキンググループで本気で考えている人がいるのか。この資料を作る前にワーキンググループがあると言い、どれだけ行政の方々が本気でつくばみらい市のことを考えているのか分からないが、私たち市民は意見を言うことしかできず、実行するのは行政である。その認識を持った上で、ワーキンググループも取り組んで欲しく、資料作りもして欲しい。乱暴な言い方しかできないが、会議の進め方も考えていただきたい。先ほど委員長から色々な指摘があったとおおり、言いたい事、伺いたい事があるが、そもそもの全体構想で不足部分が多い中で、地域別構想が作られている。ここで言ったところで、また全体構想が変わったら、何も言えない。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牟田委員からいただいた、市の取り組み等について改善をはかりたい。</li> </ul>
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日皆さんに来ていただいており、少しずつご意見、皆様、ご発言をいただきたい。後日、本市事務局へ直接、質問や意見を寄せていただくこともあり得る。</li> </ul>



発言者	意見
鐘ヶ江副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園についてだが、神生の自然の森公園と周辺一帯、21 ページにある自然環境の拠点というところ、全体構想では削除されているが、この周辺は太陽光施設が建設されて、木が伐採されている状況である。太陽光施設の計画があると思うが、景観的なものは、どのように考えているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>丘陵地域の南側はソーラーパネルが動いている。現在つくばみらい市では丘陵部地域の南側の神生地区周辺にソーラーパネルが多く図られている。貴重な緑の資源である田園・森林環境があった地域だが、地域資源が生かされていない現状の中、市として将来性はどうかと思う。残された緑は、市としても、民地ではあるが保全していきたい、引き続き守っていきたいと考えている。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>市としてこういう方針で緑を守っていききたいと契約書でうたっても、実際にその土地を持っている方や企業が、利益を上げるためにこの地区では30ヘクタール程度の大きな太陽光発電が、二か所で計画され動き出している状況である。これにより今、大切な緑の資源が伐採されている。難しいことだが、市としては、こういう方針でいきたい。またこれ関係が、実際の生活環境だとか、そういった部分と、またこの表現を再確認し、ここにどのように表現するか、再検討する。</li> </ul>
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>マスタープランと立地適正化計画と両方取り扱われており、今日を合わせ残り3回しかない。マスタープランは私もいくつか同じ県で実施しているが、通常は、全体構想だけで1日、地区別構想だけで1日と時間をかける。地区別構想の議論で青山先生から出た、個別で対処する現状に即した細かい意見は、もちろんマスタープランは全部を反映するのは難しいが、そういった意見はとても嬉しい。全体の制約の中で検討会は増やせないなので、検討会議の具体的個別の質問や意見を、事務局に言っていただければと思う。</li> </ul>
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見は、この場でなくても、今は「方針」等の表現を使用しており、この大きな表現になると、具体的な部分が見えにくい為、意見を言いつらいだろう。この会の開催の仕方や時間の使い方について様々な意見が出たが、既に2時間半近く経つ状況である。説明の仕方や、どこについて意見が欲しいのか等、会議がスムーズにいく工夫を次から用意したい。</li> </ul>
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>次回の委員会の前に、地区別懇談会を予定しているようだが、その時はこの3地区毎の地元の方に説明をするのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>この3地区で地元の説明を行う。</li> </ul>

発言者	意見
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>パブリックコメントというのがあり、最終的には市民に公開・公表するマスタープランの内容ができる。市民の皆さんに分かりやすく作成したパンフレットがどのような構成か、また、地域別スポット等についても、次回もう一回見せて欲しい。指摘があった地域別構想については、詳細なアンケートの分析や、個々の公共施設サービスの経験についての現状分析を、細かく書き内容を充実させていただきたい。それに対して課題、細かく上げられているのですが、それに対して今後どういう方針なのかという方針の部分が2、3ページ程度しかなくて、今後どうしていきたいかというところについて、先ほどご説明があったのですけれど、やはり通常、マスタープランでは、今後の整備法制について、分野別に何枚かビジュアルが出てくるのが普通である。方針が非常に抽象的なレベルで、全体構想と内容の書き込みの水準があまり変わらない印象を受ける為、この地区別構想の内容について、もう少し個別対応の内容。構想に対し、具体的な施策・実現手段は何を想定しているのか、内容の充実を検討して欲しい。</li> </ul>
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者に対する内容があった為、盛り込んで欲しい事がある。私は商業を営んでおり、店に高齢者のお客様に多々来ていただいているので、店で送迎に取り組んでいる。店まで来る足がない、免許がない、家族不在時に来れない等の方が多く、多くの方がタクシーを使っている状況であり、その辺りのことがこの計画に入っても面白いのではないかと。はっきりと入れば、高齢者の方にわかりやすく説明できる資料になる。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク維持強化の観点と、先ほどの公共バスの観点については、具体的な計画には盛り込んでいないが、来年度から、つくばみらい市コミュニティバスの本数を大分増やし対応したいと検討中だ。また、デマンドタクシーという市内一律500円で回れるタクシーもあり、その活用も高齢者に周知したいと考えている。公共交通について、先ほど青山先生からもあったが、私どもは非常に今後の政策の上で重要視されるべきものと考えている。2年前に公共交通網形成計画を作り、公共交通の全体的な計画を施策した。高齢者の移動についても、介護支援等も含め、公の事業所や病院バス等も含め事業し続けており、よろしく願いたい。ただ、計画の中にそれらをどこまで盛り込めるかは、今後検討する。</li> </ul>
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>終わりにしてよいか。ぜひ今日ご発言いただかなかった方、質問・意見等を事務局へ願いたい。</li> </ul>